

シラバス

科目名	保健	単位数	1単位	学年・学科	1学年 全学科	展開	必修
教科書名	保体701 (大修館) 現代高等保健体育			副教材名	-		
科目の目標	<p>◇保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための脂質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>						
学習内容と進め方	◇講義をはじめ、視聴覚教材を活用した授業、実習、ペアワーク・グループワークを通して、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、身につけた知識及び資質や能力を生かして、健康課題の解決を目指していくことを重視した学習活動を展開する。						
学習の留意点	<p>◇生涯を通じて自らの健康をコントロールし、改善していくことができるように、常に自己の実生活と結びつけながら積極的に授業に参加すること。</p> <p>◇学習内容をより深めるため、日頃から新聞やニュースなどを通して健康に関する情報に積極的に取り入れ、保健や健康課題に関心をもつこと。</p>						
月	単元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)
				1	2	3	
4	◇オリエンテーション		▶ 教科の方針・授業内容・評価などについて説明			○	□定期考査(前期期末・後期期末) □小テスト
5	◇〈1単元〉現代社会と健康	3	健康についての多様な考え方/健康の成り立ちとその要因		○	○	□学習ノート □レポート課題
	01 健康の考え方と成り立ち		わが国における健康水準の向上/わが国における健康問題の変化				□学習活動への参加・取り組み状況 □実習・ペアワーク・グループワーク
6	02 私たちの健康のすがた	8	生活習慣病とその種類/予防から回復まで				
	03 がんの原因と予防		がんとその種類/がんの予防				
7	04 がんの治療と回復	8	がんの治療と緩和ケア/がんとともに生きる社会づくり		○	○	
	05 運動と健康		健康からみた運動の意義/健康によい運動のしかた				
8	06 食事と健康	6	健康的な食生活の意義/健康によい食事のとり方				
	07 休養・睡眠と健康		健康からみた休養の意義/健康からみた睡眠の意義				
9	08 喫煙と健康	6	喫煙の影響/喫煙への対策		○	○	
	09 飲酒と健康		飲酒の影響/飲酒への対策				
10	10 薬物乱用と健康	4	薬物乱用の影響/薬物乱用の要因と対策				
	11 精神疾患の特徴		精神疾患の要因と種類/精神保健の今日的課題				
11	12 精神疾患の予防	5	日常生活における精神疾患の予防/精神疾患の早期発見・早期治療		○	○	
	13 精神疾患からの回復		専門家による支援と治療/社会環境の整備				
12	14 現代の感染症	5	感染症とは/様々な感染症				
	15 感染症の予防		感染症予防の3原則/現代の感染症対策		○	○	
1	16 性感染症・エイズとその予防	2	性感染症・エイズとは/性感染症・エイズの予防				
	17 健康に関する意志決定・行動選択		意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因/適切な意志決定・行動選択を実現する工夫		○	○	
2	18 健康に関する環境づくり	4	健康を保持増進するための環境/ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり				
	◇〈2単元〉安全な社会生活						
3	01 事故の現状と発生要因	3	事故とその被害/事故の発生に関連する要因				
	02 安全な社会の形成		自他の安全を確保する行動/安全を確保する社会の取り組み		○	○	
4	03 交通における安全	4	交通事故防止のための取り組み/交通事故と運転者の責任				
	04 応急手当の意義とその基本		応急手当の意義/応急手当の手順				
5	05 日常的な応急手当	4	けがに応じた応急手当/熱中症の応急手当		○	○	
	06 心肺蘇生法		心肺蘇生法の意義と方法				
				○			※前期、後期に考査を実施する
評価方法	(1) 評価の観点については、下表に示したとおりとする。 (2) 定期考査、小テスト、学習ノート、レポート、実習・ペアワーク・グループワーク等の学習活動への取り組み状況や態度などを通して評価する。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技能	◇個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。					
	2. 思考・判断・表現	◇健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。					
評価基準	3. 主体的に学習に取り組む態度	◇生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けている。					
	1. 知識・技能	<p>A：個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることが十分にできている。</p> <p>B：個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることが概ねできている。</p> <p>C：個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができていない。</p>					
	2. 思考・判断・表現	<p>A：健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けることが十分にできている。</p> <p>B：健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けることが概ねできている。</p> <p>C：健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けることができていない。</p>					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	<p>A：生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けることが十分にできている。</p> <p>B：生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けることが概ねできている。</p> <p>C：生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けることができていない。</p>					